

5 小学校国語科の授業改善のポイント

小学校 話すこと・聞くこと

問題〔3一〕〔3二〕〔3三〕
(豊職人へのインタビュー)

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすること

〔3一〕(府の正答率82.3%、全国の正答率81.3%)

○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること

〔3三〕(府の正答率71.2%、全国の正答率68.2%)

▲目的に応じて、質問を工夫すること

〔3二〕(府の正答率69.1%、全国の正答率67.4%)

解説 「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率は全国平均を上回っています。指導に当たっては、設問が求める内容を、実際の指導の場面で生徒が注意できているかを見る必要があります。

授業改善のポイント 実際の指導の中で、以下の点を確認する。

◎目的を明確にしてインタビューに臨む

聞いた内容をどのように活用するのか、自分が必要な情報は何か、誰にどのようなことを聞くのかを明確にしてから、インタビューに臨むようにする。

◎話の展開に沿って、話の内容を十分聞き取ることができるようにする

インタビュー前に、自分の考えをもったり、自分のもっている情報と知りたい情報とを整理したりしておくようにする。自分のもっている情報と関連付けながら聞くようにし、分からないことは問い返したり、相手の話につなげてさらに詳しく聞いたりする。インタビューの中で自分の考えがどう変わったかという「考えの形成」を意識させる。

〈話の展開に沿った質問の例〉

	質問の意図	質問の仕方
話の内容を確認する	分からない言葉の意味を確認する (設問二の選択肢4)	・自分が分からなかった言葉を具体的に挙げて質問をする。 「○○とは、どういうことですか。」
	自分の理解が正しいかどうかを確認する	・自分の理解したことを伝え、正しいかどうかを質問をする。 「それは○○ということでしょうか。」
相手から考えを引き出す	相手の思いをさらに引き出す (設問二の選択肢1)	・相手が繰り返した言葉を用いて質問をする。 「○○について、他にはどのようなことがありますか。」 「他にも○○なことはありますか。」
	相手に質問をする理由を理解してもらう (設問二の選択肢2)	・インタビューの目的を伝えてから質問をする。 「○○について知りたいのですが、～ですか。」 「○○の大切さを全校に広めたいのですが、～ですか。」
	相手が答えやすいようにする (設問二の選択肢3)	・別の言葉に言い換えて質問をし直す。 「では、○○(言い換えた言葉)については、いかがですか。」 ・具体例を挙げながら質問をし直す。 「例えば、○○(具体例)のようなことはありますか。」

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 報告書 小学校国語 より

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること
 〔1一〕(府の正答率71.5%、全国の正答率71.2%)
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
 〔1三〕(府の正答率30.9%、全国の正答率28.8%)
- ▲情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること
 〔1二〕(府の正答率62.7%、全国の正答率63.4%)

解説

- ・課題点は、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えること。
- ・〔1三〕は、理由や根拠を明確にして書くことについて、必要な情報を複数取り出して書くことも試されています。
- ・2つの必要な情報のうち、1つの情報しか取り出せていないということが昨年度の課題でした。全国平均を上回っていますが、正答率が30%台なので、引き続き課題意識が必要です。

授業改善のポイント (調べたことを報告する文章を書く課題)

- ◎図表やグラフを用いる際に、それぞれの資料を用いる効果について気付かせ、実際にそれらを用いた際に効果があるかどうかまで考えさせるようにする。
 (「話すこと」において、資料を用いてスピーチをする際にも、「言いたいことを相手に伝えるにはどのような資料を提示すると良いか」を考えさせることが重要)
- ◎相手や目的に応じて、適切な記述の仕方を考えることができるようにする。
 教材文等を利用して記述の仕方の工夫を捉え、その目的や効果などを考える学習を取り入れるようにする。相手や目的を明確にし、どのように書くと分かりやすいかを考えて書くことを習慣付ける。
- ◎事実と感想、意見などを区別して書くことができるようにする。
 事実を客観的に書く、文末表現に注意して書くなど、事実と考えとを区別して書くようにする。この説問の文章の「2 調査の内容と結果」の(1)~(3)はすべて、①「調査の方法」②結果(分かったこと)という形式で統一された構成である。文章の構成を意識させることは、他の種類の文章を書く際の参考となる。
- ◎自分の考えを支える理由や事例を明確にする。
 調べてわかった事実から、自分の考えを支えるものとしてふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分に捉えて書くようにする。
 調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないよう、自分の考えを確かめながら書くようにする。

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと
 〔2-1〕(府の正答率80.7%、全国の正答率80.7%)
 〔2-2〕(府の正答率76.3%、全国の正答率75.9%)
- 目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読むこと
 〔2二〕(府の正答率88.7%、全国の正答率88.5%)


解説

- ・課題点は、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。
- ・〔2-1〕の正答率は全国平均と同じですが、資料の内容を的確に押さえることは、文章を正しく読解する基本的な指導事項ですので、十分な定着が望まれます。

授業改善のポイント(調べ学習で資料を読む課題)

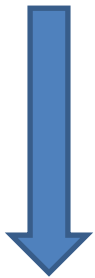
- ◎目的を明確にして資料から必要な情報を的確に押さえる。
 目的に応じて、何のために、何を知りたいのか、どのような情報が必要なかを明確にして(主体的に)読むことができるような課題設定が重要である。目的に照らして、自分の考えと関係付けて読むことができるようにする。
- ◎自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら読み、「こうではないか」と予想・推測しながら読むように指導することが重要である。
- ◎その上で、必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築したりして、理解したことをまとめるようにする。情報を整理する際には「思考ツール」を活用するなどして、頭の中にあることを言語化、視覚化させ、思考を深めることが重要である。
- ◎学校図書館を利用することを前提として、図書館での資料の調べ方も事前に確認する。目次や索引の特徴を知り、効果的に活用することも大切である。

「目次や索引を活用して読む」(学習活動の例)

<p>〈目次の活用例〉</p> <p>「納豆の作り方」を調べられそうな本を見つけたけれど、最初から全部読まないといけないのかな。</p>  <p>全部読まなくても、目次で確認するのはどうかな。書かれていそうなページを見付けてから読むといいよ。</p> <p>目次の特徴 本の初めにあることが多く、まとまりごとの内容をページの順で端的に示しているため、その本に書かれている内容の大体をつかむことができる。</p> <p>目次と索引の指導について 調べる学習などを行う際、児童の状況は様々である。目次や索引の特徴を知り、自分の目的や状況に応じて使い分けていく中で、効果的な活用方法を身に付け、有効性を実感できるようにすることが大切である。</p>	<p>〈索引の活用例〉</p> <p>目次を読んでみたけれど、「納豆菌」という言葉はどこにも使われていないよ。この本には載っていないのかな。</p>  <p>調べたい内容として「納豆菌」という言葉がはっきりとしているなら索引で探してみるといいよ。</p> <p>索引の特徴 本の終わりにあることが多く、掲載されている事柄や言葉などが50音順で示されているため、必要な内容を容易に探し出すことができる。</p>
--	---

全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- 漢字の書き「限らず」〔1四(1)イ〕（府の正答率72.4%、全国の正答率69.4%）
- 接続語を使った文の書き直し〔1四(2)〕（府の正答率51.2%、全国の正答率47.8%）
- ことわざ「習うより慣れよ」〔3四〕（府の正答率74.4%、全国の正答率73.0%）
- ▲漢字の書き「対象」〔1四(1)ア〕（府の正答率41.0%、全国の正答率41.9%）
「関心」〔1四(1)ウ〕（府の正答率38.1%、全国の正答率35.6%）



解説 これまで実施されてきたAB問題が、今年度から一体化されたので、漢字やことわざなど「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の問題は激減しました。同音異義語についての問題の1つ（「対象」）が全国平均を下回っています。引き続き以下のような指導が必要です。

授業改善のポイント

- ◎文脈に沿って、正しい漢字を書くことができるようにする。
新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得するようにする。
- ◎各学年の発達段階に応じた指導を工夫するようにする。
特に高学年では、熟語などの語句の使用が増加する時期でもあり、漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるようにする。
- ◎語彙の量と質を充実させることを視野に入れ、ことわざ等の言葉の意味、使い方についても、授業だけでなく、学級生活の中でも自然に触れるなどして、言語環境を整える。